

令和2年度第2回庄原市外国語教育研修会 兼 複式・少人数指導研修会

令和2年12月11日（金） 庄原市田園文化センター

<研修会の目的>

- ・小学校外国語科の授業研究を通して、本市小学生の実態及び小学校の取組を知るとともに、児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた指導方法の在り方について研究を深める。
- ・少人数学級における児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現する外国語科の授業づくりのポイントについて研修を行い、具体的な指導方法を学ぶ。
- ・新学習指導要領に基づく外国語科の学習評価の在り方について理解する。

【研究授業（ビデオ）】第5学年 Unit6 What would you like?

授業者 庄原市立永末小学校 教諭 川本 大地, ALT Mark Henderson

本時の目標

家族のために注文するものを伝えたり、注文されたものの値段を伝えたりしよう。

<指導のポイント>

- ☆庄原市内に実在するお店でのやり取り場面を設定することで、児童のやり取りする意欲を高める。
- ☆相手意識をもったやり取りを意識させる。
- ☆少人数を生かし、全ての児童が発言する場をつくる。



【参加者の振り返りより】

- ・指導者が積極的に英語を使って授業することで、児童にとってのよいモデルとなっていた。
- ・英語を使う目的・場面・状況を設定し、子供に付けたい力を明確にして授業を行うことの大切さが分かった。
- ・子供にとって身近なものを取り入れて授業をすることで、子供たちの意欲向上につながっていた。
- ・一人一回は生徒に話す機会を与えるなどし、子供たちの英語使用場を増やしていきたい。

【協議】少人数学級における外国語指導を充実させるための手立て、アイデアについて

<協議で出た手立てやアイデア>

- ペアを変えながら全員とやり取りする。
- スモールトークでの指導者と児童生徒のやり取りを増やし、たくさんの英語を言わせたり聞かせたりする。
- 職員室で他の先生にインタビューをさせるなど、学校全体で取り組む。
- 他学年で発表するなど、学年間交流をする。
- 定着状況に合わせ、個別に発音指導などをする。
- 今後、オンラインで他校との交流ができるとよい。



【講話・演習】「外国語科における学習評価について」

広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 住吉谷 大輔

- 「話すこと」の領域における「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価について、学習評価に関する参考資料に記載されている表現を基に、評価の観点について分析し、確認した。
- どの単元でどの領域を焦点化して評価を行うか、1年間を見通した評価計画を立てる重要性について確認し、実際に「記録に残す評価」の場面について、単元計画をもとに評価場面を構想する演習を行った。



【参加者の振り返りより】

- ・評価についてとても難しく思っていたが、評価する領域を焦点化すること、そして記録に残す評価の場面を決めていくことについて理解できた。
- ・記録に残す評価の場面を精選し、どの単元でどの領域に焦点化して評価していくかを考えたい。
- ・単元のどの時間に何を記録して評価するかを明確にもって授業計画を立て、適切な評価をしていきたい。
- ・単元のゴールで求める姿を常にイメージし、ゴールまでの授業において、どこで、どのように思考・判断・表現させるのかを考え、授業していく大切さを改めて実感した。